参考資料1
科学技術・学術審議会
学術分科会（第 99 回）
令和 8 年 11 月 30 日

科学技術・学術審議会 学術分科会（第 98 回）における主な意見

議題 1（令和 8 年度予算のポイント、研究開発マネジメント人材・技術職員の育成確保）についての主な意見

〇技術職員を高度専門人材として位置づける方向性は非常に重要である。他方で、大型研究施設や共用設備では技術職員の専門性が研究力を左右するため、研究基盤戦略と連動したキャリアパスや処遇設計の具体化が今後の課題である。

〇技術職員の安定的雇用を考える上で、競争的資金や共同研究経費だけでは十分とは言えない。運営費交付金を活用した安定的な雇用確保の考え方を、より明確に示すべきである。

〇研究開発マネジメント人材や高度技術職員について、博士取得後の具体的なキャリアパスを分かりやすく示すべきである。また、間接経費による人件費確保では雇用が不安定になりかねず、安定財源の確保が重要である。

〇技術職員のキャリアパスについて、マネジメント系統とスペシャリスト系統とで明示されたことは評価できる。他方で、大学間・組織間で制度が異なるとキャリアパスが共有しにくいため、どこまで統一かできるかの議論が必要である。

〇産学連携研究の拡大に伴い、企業と大学を結ぶ研究開発マネジメント人材の育成が重要である。産業界からの人材登用も視野に入れたキャリアパス整備が求められる。

〇研究開発マネジメント人材には知財戦略やスタートアップ育成、資金獲得などにビジネス面の知見が不可欠である。大学経営や事業戦略を構想できる高度な人材育成環境が必要である。

〇マネジメント人材の安定雇用のためには長期的な財源確保策が必要である。加えて、産学官の人材流動性を高める政策を強化すべきである。

〇高度な研究マネジメント人材を確保するには、大学と民間企業との給与水準の格差が大きな課題である。労働市場に見合った処遇を実現しなければ優秀な人材獲得は難しい。

〇AI 人材の確保と育成は技術職員分野でも重要な課題である。研究・教育の両面で AI 活用が進む中、技術職員向けの AI スキル向上施策を推進すべきである。

議題２（大学研究力強化に向けた取組・国際卓越研究大学）についての主な意見

〇国際卓越研究大学制度では研究力に加えてガバナンスや財務戦略の実効性が適切に評価されている。一方で、国際卓越研究大学と J-PEAKS とは予算規模に大きな幅があるため、これらの間を埋める研究大学支援策の充実が必要である。

〇東北大学では国際卓越研究大学の採択に伴い、次世代研究者挑戦的研究プログラムとの関係で博士学生への支援が後退する影響が生じた。東京科学大学においても同様の問題が生じないよう配慮が必要である。

議題３（「AI for Science」の推進に向けた基本的な戦略方針）についての主な意見

〇大型基礎科学装置は単なるデータ供給源ではなく、AI 実装を牽引する象徴的なフィールドとして位置づけるべきである。また、信頼できる AI の具体化と、AI と基礎科学の双方に精通した専門人材育成が重要である。

〇日本は投資額や計算資源で海外との差が非常に大きいため、科学研究分野だけではなく産業全体で AI の競争力を高める視点が必要である。文科省単独ではなく、国全体の産業政策と連携した取組が求められる。

〇研究現場への AI 普及は自律的に進むものと思われるため、国家としては学術分野の国際優位性を確保する戦略を重視すべきである。国際連携や戦略的不可欠性の確保を見据えた科学技術政策の観点で、「AI for Science」を進めていく必要がある。

〇「AI for Science」が社会全体でどう位置づけられているか言及の必要がある。また、社会科学分野にも膨大な公的データが存在するため、人文社会科学分野についても議論できるような土壌をつくるべきである。

〇信頼できる AI の開発を戦略全体の中でより明確に位置づけるべきである。また、AI が自然なツールとして研究活動の一部となる環境整備は、2030 年代を待たず早期に進める必要がある。

〇萌芽的な研究を支援するチャレンジ型プログラムは、日本独自の新たな研究領域を開拓する上で非常に重要である。研究期間や継続支援の仕組みを柔軟化し、成果を次段階につなげる制度設計が必要である。

〇AI 分野ではスピードが極めて重要であり、重点分野を明確化する必要がある。国際協業・国際連携についても、より具体的な戦略と実行計画を示すべきである。

〇「AI for Science」では、世界を先導する方向と底上げの方向の両面が重要である。また、人文社会科学分野は特にそうだが、既存の AI を活用した研究ワークフロー改善を支援する施策も必要である。

〇AI 専門家と研究分野の専門家が協業する体制の構築が非常に重要である。AI データ管理や活用を支援する専門人材の育成と産学連携の強化が重要である。

〇AI 分野では国主導で戦略的・組織的に取り組むことが極めて重要である。日本の強みである研究データや研究基盤を生かしながら研究力向上を図るべきである。

〇AI 活用だけでなく、倫理や信頼性への配慮も重要である。研究費審査などへの AI 導入も想定し、慎重な運用ルールをあらかじめ整備すべきである。

〇日本は海外の AI 成果を活用できる立場にもあり、短絡的な「勝ち筋」だけを求めるべきではない。研究者全体が AI を使いこなせる環境整備と AI 活用人材の育成が重要である。

〇AI の倫理や信頼性については重要な課題であるが、現段階では具体的な方策が十分に見えない。今後さらに議論を深める必要がある。

〇社会科学・人文科学分野では民間資金が入りにくい領域への支援が必要である。また、AI 活用による研究成果を適切に評価する仕組みも整備すべきである。

〇AI 時代にはアジリティを持った政策運営が不可欠である。研究データはナショナルアセットとして統一的に管理・活用するとともに、データ由来の価値やスタートアップの取扱いについても制度的検討が必要である。

（以上）